

議 事 録

会議の名称	令和7年度第1回岩倉市環境審議会
開催日時	令和7年7月14日（月）午後3時から午後4時30分まで
開催場所	市役所7階 会議室7
出席者 （欠席委員・説明者）	出席委員：千頭会長、川田委員、岸委員、寺澤委員、大井委員、山内委員、関戸委員、三輪委員、若園委員、花井委員、大矢委員 欠席委員：賀田野委員 説 明 者：市民協働部長、環境政策課長、清掃事務所長、さくら・川・環境グループ長、同グループ主査・主任
会議の議題	1 あいさつ 2 議題 （1）審議事項 ①第2次岩倉市環境基本計画の進捗等について （2）報告事項 ①ごみ収集量と資源回収量の状況について ②環境月間の取り組みについて ③ゼロカーボンシティ推進プロジェクトについて ④主要河川水質調査結果について 3 その他
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
会議に提出された資料の名称	・次第 ・岩倉市環境審議会委員名簿 ・第2次岩倉市環境基本計画 進捗管理シート〔資料1〕 ・岩倉市のゴミ収集量と資源回収量の状況について〔資料2〕 ・令和7年度 環境月間（6月）の取り組みについて〔資料3〕 ・ゼロカーボンシティ推進に向けた取り組みについて〔資料4〕 ・主要河川水質調査結果〔資料5〕 ・第2次岩倉市環境基本計画（概要版） ・カードゲーム「2050 カーボンニュートラル」体験会チラシ
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	無し

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

会長あいさつ

近年、海水温が上昇しており、水温1℃の上昇が生態系に与える影響は、気温6～7℃上昇に相当すると言われている。

2 議題

（1）審議事項

①第2次岩倉市環境基本計画の進捗等について

環境政策課より説明。

花井委員：2ページの7番「廃食用油の回収によるバイオ燃料としての再生促進」について、セントレアでもSAFを利用していると聞かすが、岩倉市では油の回収を行っているという広報はあまり見ない。一般家庭の油を回収しているか。

事務局：現状、eライフプラザで回収を行っており、周知としては、市ホームページへの掲載や毎年広報紙と同時配布しているリーフレットに記載している。なお、各地域にあるごみ集積所では、油の性質上、取り扱いが難しいため、回収は行っていない。また、学校給食センターや保育園で発生した油についても回収している。県が主導するSAFのプロジェクトにもエントリーしており、これから進めていくところである。

花井委員：回収した油から、どれほどの量が精製されているか把握しているか。

事務局：精製量は把握していない。

花井委員：把握し、データを公表した方が良く考える。

大矢委員：自分の家庭でも油の処理は進めていきたいと考えている。老夫婦になると、油を処理する手間を考えて使わないことを選ぶ方もいると聞く。少量でも持っていく再利用していきたい。

千頭会長：回収方法は主に2つある。1つ目は、容器ごと出す。2つ目は、地域でまとめて一斗缶で出す。京都では、昔から市バスに利用していて、家庭用廃油の回収習慣が根付いている。

事務局：ペットボトルに入れて持ってくる方もいる。

関戸委員：自己評価について、5点の評価をした項目は、どのように目標を達したのか経緯が記載されていないと、意見を言いづらい部分がある。

事務局：評価については、昨年度と比較しながら、取組が充実したかどうかを加味し、自己評価を各担当課でしている。

千頭会長：参考として岩倉市の総合計画では、市民評価の項目がある。将来的には、単位施策や基本施策の単位で市民評価をすることも検討してはどうか。

花井委員：竹林公園周辺の河川敷の工事については、市の管轄か。

事務局：市の内部では、都市整備課が管轄しているが、河川の関係なので県の事業である。

大井委員：7ページごみの関係について、リチウムイオン電池について、危険性をよりPRしてほしい。

事務局：ごみ集積所において、「リチウムイオン電池含む」と看板に書き加えたほか、ほっと情報メールや市公式LINEで複数回周知をしているが、今年度、小牧岩倉エコルセンターでも発火があった。また、今年4月からプラスチック製品の回収も始めた

こともあり、危険なケースが想定されたので、2月号の広報紙でも周知した。それでも、処分場では3日に一度は小規模な発火が起きている。

関戸委員：先ほど話のあった小牧岩倉エコルセンターでの発火はどういった箇所で起きたのか。

事務局：今回は、ごみ破碎施設で発火した。

千頭会長：リチウムイオン電池はハンディファンにも使われている。本来であれば、製造側で製品に目立つよう注意書きを設けるべき。

事務局：環境審議会とは別の会議でも、リチウムイオン電池の取り扱いについて話題となり、7月号の広報紙ではどういった製品に含まれているか例示した。

大井委員：認知症の方のごみ出しについても、曜日の誤り等が散見される。

事務局：市の福祉部局とも話し合いをしていて、ヘルパーを利用している方はごみの分別をしてもらっているケースもあると聞いている。

大井委員：自分が認知症という自覚のない方については、周りの人が気を付けるしかないか。

事務局：課題ではあるが、現状は周りの方にケアしていただく状況となっている。

千頭会長：評価について、「今後の方向性」欄を活かすためにも、昨年と今年の比較ができるよう表記してあると良い。また、資料の字を大きく印刷していただきたい。

（２）報告事項

①ごみ収集量と資源回収量の状況について

環境政策課より説明

関戸委員：ごみの量が多い月があるが、その要因は把握しているか。要因を把握しているのであれば、資料に記載してほしい。また、ごみ集積所によっては、ごみが散乱しているのでそちらの対策についてはどうか。

事務局：月ごとの要因については、推測となるが、年度末や年末年始に多い。粗大ごみについても同じ傾向にある。また、ごみ集積所の対策については、令和5年度からごみ集積所のBOX化を推奨しており、設置に対しての補助金制度もある。令和6年度は19件の実績があった。

花井委員：ごみ集積所に設置してあるネットは、市から提供されているものか。

事務局：ネットは市から提供しているが、それ以外のものは区が工夫している箇所もある。

関戸委員：ごみ集積所のBOX化実績も資料に含めてほしい。

事務局：区長会でもBOX化補助制度の説明はしているが、設置が難しい箇所もある。

関戸委員：五条川沿いの集積所は減らしてほしい。個人の敷地内も嫌がられると思うが、市からの補助金があれば了承する方もいると考える。

事務局：そのような事例があれば紹介していきたい。

千頭会長：ある自治体では、集積所の清掃をすることを条件に、境界を超えてごみ出しをしている方もいると聞いた。

千頭会長：4ページの資源化率の説明で、民間業者の回収とあったが、民間業者の回収量は把握しているか。

事務局：回収量の回答をしていただいている民間業者もあるが、全ての業者ではない。

千頭会長：民間業者の回収量も含めて計算することができれば、より正確な資源化率が算出される。おそらく資源化率は上がると考えるので、可能であれば資料に加えていただきたい。

千頭会長：コンポストについては堆肥になるものであり、使い道に困る方がいるケースもある。消滅型の生ごみ処理もあり、そちらの需要があることも考えられるので検討いただきたい。

②環境月間の取り組みについて

環境政策課より説明

山内会長：市民ギャラリー展示について、職場体験の中学生が考えた内容はこういったものか。

事務局：実際の展示物を基に説明

③ゼロカーボンシティ推進プロジェクトについて

環境政策課より説明

千頭会長：川柳は面白い取り組みである。展示は行う予定か。

事務局：ふれ愛まつり（環境フェア）や市民ギャラリーでの展示、ホームページでの紹介を考えている。

④主要河川水質調査結果について

環境政策課より説明

関戸委員：非灌漑期のR5でのSSの数値が大きいが問題ないか。

事務局：他年度に比べると数値が大きく出ているが、基準値以内となっている。

千頭会長：SSの数値に影響を与えることもあるので、雨が何日間降っていない状態で調査したかを資料に加えてあるとより良い。

3 その他

- ・次回開催日について、令和8年1月19日(月)午後2時～開催とする。
(欠席された委員にも後日、日程確認を行い、了承いただいた。)